



2026年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年2月13日

上場会社名 川辺株式会社

上場取引所 東

コード番号 8123 URL <https://www.kawabe.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡野 将之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理統括本部長 (氏名) 有田 二郎

TEL 03-3352-7110

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	9,547	3.8	135	240.6	241	83.1	153	27.1
2025年3月期第3四半期	9,201	1.8	39		131	89.1	210	824.3

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 283百万円 (1.7%) 2025年3月期第3四半期 278百万円 (615.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	83.96	
2025年3月期第3四半期	115.16	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	12,688	7,279	57.4
2025年3月期	12,407	7,087	57.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 7,279百万円 2025年3月期 7,087百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期				50.00	50.00
2026年3月期					
2026年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,470	5.5	229	25.4	379	9.1	225	45.3	123.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期3Q	1,861,000 株	2025年3月期	1,861,000 株
2026年3月期3Q	36,222 株	2025年3月期	36,170 株
2026年3月期3Q	1,824,800 株	2025年3月期3Q	1,825,071 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(重要な後発事象)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～12月31日）における国内経済は、経済活動の正常化が進む中で、雇用・所得環境の改善や賃上げの定着を背景に緩やかな回復基調を維持いたしました。また、大阪・関西万博の開催や為替の影響により訪日外国人観光客の増加が進み、都市部や主要都市を中心にインバウンド需要が高まりました。しかし、国際情勢の不安定化や原材料価格の高止まり、日銀の金融政策正常化に伴う金利上昇など、先行きには不透明感が残る状況となりました。

個人消費については、春先までの急激な為替変動も落ち着きを見せ、夏場以降は比較的安定した推移となり、生活必需品を中心とした値上げもピークアウトの兆しがみられたものの、生活防衛意識は根強く、消費者マインドは依然として慎重な状況が続きました。

このような環境のもと、当社の主要販路の一つである百貨店業態では、11月中旬以降中国人観光客の減少による影響が一部で見られたものの、その他アジア地域や欧米からのインバウンド客による高価格帯商品の需要は堅調に推移し、都市部店舗を中心に売上を下支えしました。

一方、国内顧客については中高価格帯商品の買い控えが継続しており、店舗間および地域間での二極化が一層鮮明となりました。地方店舗を中心に前年を下回るケースも見られ、業態全体としては厳しさが続いている状況でした。

当社におきましては、このような百貨店の状況はもとより大型GMSの店舗閉店や売場縮小などマイナス要因もありましたが、インバウンド需要やIPキャラクター、万博関連商品などが堅調に推移し、ハンカチーフを中心に、既存のお取引先様の環境の変化に対応し売上確保に努めるとともに新たな売場獲得にも積極的に取り組んで参りました。

利益面においては、為替変動に伴う原材料コストの上昇や人件費増加の影響を受けたものの、生産拠点の効率化、在庫水準の適正化、販管費のコントロールに継続して取り組んだことにより、一定の収益を確保することが出来ました。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高95億47百万円（前年同期比103.8%）、営業利益1億35百万円（前年同期比340.6%）、経常利益2億41百万円（前年同期比183.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億53百万円（前年同期比72.9%）となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

身の回り品事業

ハンカチーフにつきましては、インバウンドに支持されたブランドのライセンスアウトや12月度の中国人観光客の減少による影響等があったものの、日本製大判プリントハンカチーフや、ショッピングバッグ等が主力取引先百貨店において想定以上に推移したことと、47都道府県をクローズアップしたオリジナル企画商品（ハンカチーフ、ミニタオル、雑貨など）の展開など新規売場獲得の取り組みの強化を行い成果に繋げて参りました。

また、大阪・関西万博の関連商品も10月度の万博終了以降も人気が衰えることなく、オフィシャルショップを中心に売上を構築することが出来ました。

そして、POLO RALPH LAURENのハンカチーフ、ファッションバッグが自社EC、ZOZOTOWN、楽天ファッションで好調に推移し、EC市場においての売上を大きく牽引する結果となりました。

その結果、ハンカチーフアイテム全体の売上は前年比110.8%と大きく伸長しました。また、商品の価格見直しが功を奏し、売上総利益率向上の結果となりました。

スカーフ・マフラーにつきましては、フェイクファーなどトレンド商材を中心に、秋の立ち上がりは好スタートをきりました。また、百貨店外商顧客特招会への積極的な参加による新たな売上の獲得やテレビ通販やイベントなど既存店以外の展開も試みましたが、暖冬の影響は大きく、繁忙期である11月～12月の商戦は全体的に振るわず売上は前年比82.4%となりました。

タオル・雑貨につきましては、大型量販店のリビングタオルが好調に推移しました。また、テレビ通販部門におきましては、オンエア規模復調による効果が図れた結果、売上は前年比104.5%となりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の身の回り品事業での売上は、前年比105.9%となりました。また身の回り品全アイテムにおいて原価削減策が功を奏し、売上総利益率は前年同期と比べ3.5ポイントの改善となりました。

フレグランス事業

フレグランス事業につきましては、単一ブランド店においてはCREEDの3店舗およびVan Cleef & Arpels新宿高島屋店が引き続き好調を維持し、11月のVan Cleef & Arpels大阪高島屋店、12月のACQUA DI PARMAとBVLGARIの西武池袋店といった新店開設も売上を牽引し12月のクリスマス商戦は順調に推移いたしました。

また、新規のお取引先様である株式会社ケリングジャパンへの大口販売が開始され売上に寄与いたしました。一方、複数ブランドを集積して販売する店舗および地方百貨店の店舗は依然として厳しい状況が続きました。

その結果、当該期間のフレグランス事業全体の売上は前年比93.9%となりましたが、売上総利益率につきましては前年同期と比べ3.4ポイントの改善となりました。

以上のことから全事業といたしましては、売上は前年同期と比べ103.8%と伸長いたしました。

また、前連結会計年度から継続しているグループ連携によるコスト対策および商品価格の見直しを行った結果、売上総利益率は前年同期と比べ3.3ポイントを上回る結果となり、売上総利益は大幅な増加となりました。

一方、販売費および一般管理費が増加した結果となりました。これは前連結会計年度に引き続き、新規出店などの案件に対しての先行投資によるものであります。

その結果、売上総利益の大幅な増加の影響により、営業利益（前年同期比340.6%）、経常利益（前年同期比183.1%）は共に、前年同期と比べ大幅な増加となりました。

しかしながら、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同期比72.9%と減少の結果となりました。これは、前第2四半期連結会計期間に減資手続きを行い、繰延税金資産の計上を見直し、法人税等調整額の戻しが発生した影響によるものであります。

なお、当連結会計年度の期末予想は、当初計画通りとさせていただきます。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結累計期間における「資産合計」は、前連結会計年度末の124億7百万円から126億88百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加、受取手形及び売掛金の減少、商品及び製品の減少、投資有価証券の増加によるものであります。

「負債合計」は、前連結会計年度末に比べ88百万円増加し、54億8百万円となりました。

これは主として、支払手形及び買掛金の減少、短期借入金の減少、1年内返済予定の長期借入金の増加、長期借入金の増加、繰延税金負債の増加によるものであります。

また、「純資産合計」は前連結会計年度末に比べ1億92百万円増加し、72億79百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における総資産は、前連結会計年度末の124億7百万円から126億88百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、2025年5月12日発表の「2025年3月期決算短信」の業績予想から変更しておりません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,360,532	1,617,942
受取手形及び売掛金	2,144,566	1,892,779
商品及び製品	2,837,928	2,782,849
仕掛品	107,715	99,639
原材料及び貯蔵品	202,375	245,153
その他	259,165	253,073
貸倒引当金	△183	△142
流動資産合計	6,912,100	6,891,295
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	781,744	756,832
工具、器具及び備品（純額）	105,960	102,332
土地	1,099,724	1,099,724
その他（純額）	70,524	106,692
有形固定資産合計	2,057,953	2,065,582
無形固定資産	214,298	202,313
投資その他の資産		
投資有価証券	1,154,883	1,452,767
投資不動産（純額）	1,567,462	1,549,679
繰延税金資産	93,918	95,525
その他	406,843	431,127
投資その他の資産合計	3,223,107	3,529,099
固定資産合計	5,495,359	5,796,995
資産合計	12,407,460	12,688,291

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,836,626	1,654,617
短期借入金	1,950,000	1,800,000
1年内返済予定の長期借入金	128,920	193,810
未払法人税等	14,868	58,132
賞与引当金	36,330	—
その他	575,532	670,852
流動負債合計	4,542,277	4,377,412
固定負債		
長期借入金	195,090	314,760
退職給付に係る負債	374,285	377,867
資産除去債務	49,376	46,857
繰延税金負債	16,601	139,122
その他	142,124	152,384
固定負債合計	777,477	1,030,991
負債合計	5,319,755	5,408,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,391,067	3,391,067
利益剰余金	3,319,403	3,381,377
自己株式	△55,614	△55,679
株主資本合計	6,754,857	6,816,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269,631	393,939
繰延ヘッジ損益	78	9,906
為替換算調整勘定	41,526	39,174
退職給付に係る調整累計額	21,611	20,102
その他の包括利益累計額合計	332,847	463,123
純資産合計	7,087,704	7,279,888
負債純資産合計	12,407,460	12,688,291

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	9,201,522	9,547,509
売上原価	5,420,914	5,307,583
売上総利益	3,780,608	4,239,925
販売費及び一般管理費	3,740,821	4,104,401
営業利益	39,787	135,524
営業外収益		
受取利息	190	1,419
受取配当金	17,359	25,330
投資不動産賃貸料	130,306	137,556
その他	40,344	35,513
営業外収益合計	188,201	199,819
営業外費用		
支払利息	19,497	23,607
不動産賃貸費用	63,546	61,189
持分法による投資損失	11,238	6,648
その他	2,058	2,891
営業外費用合計	96,340	94,336
経常利益	131,647	241,008
特別利益		
投資有価証券売却益	-	22
資産除去債務戻入益	-	1,118
特別利益合計	-	1,140
特別損失		
固定資産除売却損	3,098	623
減損損失	-	4,017
特別損失合計	3,098	4,640
税金等調整前四半期純利益	128,549	237,508
法人税、住民税及び事業税	23,654	23,962
法人税等調整額	△105,282	60,331
法人税等合計	△81,627	84,294
四半期純利益	210,177	153,214
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	210,177	153,214

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	210,177	153,214
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61,330	124,307
繰延ヘッジ損益	2,972	9,828
持分法適用会社に対する持分相当額	2,458	△2,351
退職給付に係る調整額	1,942	△1,508
その他の包括利益合計	68,704	130,275
四半期包括利益	278,881	283,490
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	278,881	283,490
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	128,291千円	135,854千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	身の回り品事業	フレグランス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	7,534,834	1,666,688	9,201,522	—	9,201,522
計	7,534,834	1,666,688	9,201,522	—	9,201,522
セグメント利益又は損失(△)	281,397	△14,888	266,509	△134,861	131,647

(注) 1. セグメント利益の調整額△134,861千円には、棚卸資産の調整額△2,147千円と各報告セグメントに配分していない全社損益△132,714千円が含まれており、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	身の回り品事業	フレグランス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	7,982,018	1,565,491	9,547,509	—	9,547,509
計	7,982,018	1,565,491	9,547,509	—	9,547,509
セグメント利益又は損失(△)	431,438	△112,503	318,934	△77,926	241,008

(注) 1. セグメント利益の調整額△77,926千円には、棚卸資産の調整額25,189千円と各報告セグメントに配分していない全社損益△103,115千円が含まれており、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	身の回り品事業	フレグランス事業	計		
減損損失	—	4,017	4,017	—	4,017

(注) 当第3四半期連結累計期間において減損会計の適用により、フレグランス事業直営店舗の減損損失を計上しております。